

静岡県漁業協同組合連合会

1016 静岡市追手町 9-18
14.10.25 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. さかな王国海のフェスティバル「海の子フェスタ2002」下田市で盛大に開催

去る10月20日、海の子フェスタ実行委員会(静岡県、県教委、下田市、県漁連、下田市漁協、水産関係団体)主催による「海の子フェスタ2002」が、下田市漁協魚市場、ベイステージ下田において開催されました。

今回の「海の子フェスタ2002」は、昨年の「第21回全国豊かな海づくり大会」後、従来のフェスティバルをリニューアルし、次代を担う子供達に視点を当て、海の環境保全や資源管理の重要性を学ぶ機会を提供しようと開催したものです。

当日は、県内漁業関係者をはじめ地元市民ら約2万人の人で賑わい、式典では主催者を代表して、原剛三実行委員会会長(本会会長)が挨拶したあと、鈴木雅近副知事より挨拶があり、続いて石井直樹下田市長が歓迎のことばを述べ、次に森竹治郎県議会議長が来賓を代表して祝辞を述べました。

引続き、「第37回静岡県 海の子の作品展」の県展及び賀茂地区展の表彰が行われ、鈴木副知事より県知事賞に選ばれた高木優大朗君(田子小学校5年)「伊勢エビを選ぶ山本さん」、大石晴彦君(焼津和田中学校2年)「逆光」の2名が表彰されました。

また、賀茂地区展では、絵画の部の小学生部門では原田若奈さん(安良里小学校3年)「大漁だ!大漁だ!」、中学生部門では増田和真君(下田東中学3年)「働く人」、作文の部の小学生部門では菊池あきさん(下田小学校2年)「きれいな海」、中学生部門では加嶋祐一郎君(下田中学校1年)「海とじいちゃんと僕」が実行委員会会長賞に選ばれ各々を原実行委員会会長が表彰しました。引続いて、佐々木源也下田市漁協組合長より大会決議が読み上げられ、最後に佐藤吉明県信漁連会長より閉会のことばが述べられ式典は終了しました。

式典終了後、岸壁で主催者、来賓、招待者、小学生によるマダイ、ヒラメ、ムツの記念放流が行われると共に下田市漁協の所属船30隻による漁船パレードが行われました。

また、会場内ではアジのつかみどり、地元特産の水産物等の即売、ミニ水族館、深層水利用食品とマリンロボシステムによる水産情報の展示、地元の中学生によるプラスバンド演奏や市民による太鼓演奏など多彩な催しが行われたほか、漁船と調査船による体験乗船が行われました。最後にメイン会場で金目ダイやイセエビなどの水産物が当たる抽選会や餅まきが行われ来場者で終日賑わいました。

2. 御前崎沖の沈没船サントラスト号の油抜き取り作業始まる

去る8月8日御前崎沖において貨物船同士が衝突し韓国船籍のサントラスト号(以下S号)が沈没し、燃料油が流出、その油が駿河湾内を漂流し8月10日から13日にかけて伊豆西海岸

及び駿河湾奥部に一部が漂着しましたが、多くの漁業関係者が防除作業に従事し漁業被害は最小限にとどめることができました。

その後、本会としては更なる海洋、漁場汚染を防ぐためS号の船主及び代理人である弁護士及び清水海上保安部に対しS号に残っている油の早期抜き取りを求めてきましたが、この程代理人である弁護士から10月21日頃から日本サルベージ社の日神丸が御前崎に到着し、天候に左右されるものの昼夜を問わず作業を行い、順調に行けば約2週間でS号に残っている燃料油を抜き取り作業は終了するとのことです。現場海域では、S号の真上に日神丸を固定するため4個のアンカーを出しているため、近くを航行する漁船には十分注意くださるようご指導をお願いいたします。

なお、本会といたしましては油の抜き取り作業終了後も、先の油流出による防除費用の請求手続きと沈船撤去の要請等を行うことにしています。

3. 漁協初の風力発電所完成

長崎県にある鷹島阿翁漁協では、先に建設を進めていた鷹島風力発電所が完成し、去る10月10日現地において建設工事に携わったNKKなどの工事関係者が出席して竣工式を行い神事後、組合長らがスイッチを押して稼働を開始しました。

同発電所は1基からなり、当面、漁協と経済産業省の外郭団体、新エネルギー産業技術総合開発機構が共同で運用することになっています。

発電された電気は九州電力に売り渡され、7年後には同漁協が単独で運営することになっていますが、単協が売電向け風力発電所を持つのは全国で初めてのケースとなり、漁協の異業種経営の一つとして注目されています。

発電所建設工事費は、約2億2,270万円で漁協、新エネルギー産業技術開発機構が50%ずつ負担し、発電能力は最高750KWですが、海底送電線の都合で550KWに抑え稼働することにしてあります。また、この発電所の能力は一般家庭約200戸分の電力が期待でき月150万円程度の収入が見込まれているとのことです。

4. 県TAC(漁獲可能量) 9月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象5魚種の9月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがTAC数量10,000トンに対し228トンで消化率2.3%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し3,544トンで消化率44.3%、またTAC数量が若干量の魚種では、サンマ213トン、マアジ2,228トン、スルメイカ294トンとなりました。

5. 諸会議・日程(10月29日(火)~11月11日(月))

- 既報分省略 -

11月 5日(火) 県漁業共済組合 = 理事会 (県水産会館)

11月 8日(金) 県漁業信用基金協会 = 臨時総会、理事会、審査会 (県水産会館)

11月 9日(土) 県おさかな普及協議会 = おさかな料理コンクール (静岡市・鈴木学園)

11月11日(月) 県漁業振興基金 = 榛南地域栽培漁業展開促進事業協議会 (地頭方漁協)